

第1回境港市みんなでまちづくり推進会議録

日時：平成31年3月28日(木) 18:30～20:15

場所：市役所第一会議室

日程

1. 開 会
2. 境港市民活動推進補助金審査
3. 今期取組テーマ「U・Iターンをしたくなるまちづくり」についての協議
4. 閉 会

出席者（敬称略）

（委員）

渡部敏樹 遠藤恵子 松本幸永 徳尾勝 松田真二 松本信子
遠藤緑 門脇京子 糸川諒 足立勲

（欠席）

渡邊冬樹 岩本和貴

（事務局）

伊達憲太郎（総務部長） 沼倉加奈子（地域振興課長） 片岡直人（地域振興課長補佐兼
企画係長） 木村哲（地域振興課企画係主任） 渡部大樹（地域振興課企画係主事）

（傍聴者）

なし

1. 開 会

（会長）

皆さん、こんばんは。お疲れのところ、お集まりいただき、ありがとうございます。
これより平成31年第1回目のみんなでまちづくり推進会議を開催いたします。
それでは、まずは、事務局からご報告があるとのことですので、お願いします。

（地域振興課長）

皆さまこんばんは。4月1日の人事異動が発表になりましたので、ご挨拶させていただきます。

（総務部長）

今年度いっぱい定年退職となりました。皆さまのご協力のおかげで、38年間無事

勤めあげることができました。ありがとうございました。

(地域振興課長補佐)

私は一年間でしたが、こういうまちづくりの仕事や中海・宍道湖・大山圏域市長会の事業を行ってきましたが、4月からは中海・宍道湖・大山圏域市長会の事務局へ出向することになりました。この仕事の思い出といえば、この「U・I ターンをしたくなるまちづくり」というテーマを台風が来る中、毎熊アドバイザーと一緒に決めたことですか、高校生とのワークショップ、私ワークショップというのは初めて体験しまして、私自身とても勉強させてもらったなと感じています。皆さまにおかれましては、あと一年間じっくりテーマについて話し合っていたいただき、提言等につなげていただけたらなと考えております。ありがとうございました。

(地域振興課主任)

4月から地域振興課企画係長になります。よろしく申し上げます。これまでも地域振興課にはおりましたけれども、主にふるさと納税の業務を担当しており、このような会議には出席しておりませんでした。本日は、雰囲気を楽しむながら、勉強させていただきます。よろしく申し上げます。

(地域振興課長)

貴重なお時間をありがとうございました。

2. 境港市民活動推進補助金審査

(会長)

本日は、ご案内させていただいたように、先に市民活動推進補助金の審査をして、その後、午後7時50分ごろより、今期の取組テーマ「U・I ターンをしたくなるまちづくり」について協議したいと思います。なお、本日は、渡邊冬樹・岩本委員が欠席です。さて、早速ですが、市民活動推進補助金の審査に移りたいと思います。事務局より説明をお願いします。

(事務局)

本年、1回目の募集をしましてところ、一般事業に1団体の申請がありました。審査員の皆様には、事前に書類審査をしていただいております、お忙しい中、ありがとうございました。

事前審査による申請団体の評価点は、お手元の資料のとおりとなりましたので、ご確認ください。審査表の審査基準を基に、申請書のみでの審査をしていただきましたので、この後行われるプレゼン後に得点修正があればそこで修正していただき、審議をしていただきます。

それでは、本日の審査会の進め方について説明いたします。

ヒアリング審査員3名と地域振興課長の計4名でヒアリング審査を行います。ヒアリング審査員3名については、あらかじめ事務局の方で、決めさせていただきました委員の方をお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

続きまして、ヒアリング審査の仕方を説明いたします。

今回ヒアリング審査を行う団体は一般事業の1団体です。まず最初の3分間で申請団体から申請概要説明をしていただきます。その後、残りの17分間でヒアリング審査員の方に質疑をしていただきます。質疑にあたっては、このあと、委員の皆さままでどのような質問をするか、また誰がどの質問をするかという打ち合わせをする時間を設けたいと思います。ですので、質疑にあたっては、ご自身で考えられた質問のみならず、お手元の「審査表集計結果」にあります皆さまの意見を委員の代表として述べていただくようお願いいたします。なお、質疑の間、ヒアリング審査員以外の方には、傍聴をしていただきますようお願いいたします。

プレゼン終了後に皆様に審議していただきます。そこで、事前にご記入いただいた審査表の得点とプレゼンを参考にしながら採択・不採択の決定を行っていただきます。各事業とも30点満点で、6割の18点が採択の基準点となっております。

以上で説明は終わりますが、何かご質問等ございますでしょうか。無いようでしたら、審査内容の打ち合わせを行いたいと思います。

※委員質問なし

<打ち合わせ>

- ①ヒアリング審査員のうち、誰がどの質問をするか振り分け
- ②質問の意図を確認

<申請団体によるプレゼンテーションの開始>

◇1団体目 一般社団法人境港青年会議所

- ・申請事業 郷土愛育成事業～中海環境学習～
- ・事業内容 境港市の未来を担う子供たちに中海の現状を知ってもらい、海を大切にすることや郷土愛を醸成することを目的に、校内授業・課外授業を実施し、その様子を動画で公開する。

(委員)

「中海の歴史と現状について講義します」とありますが、講師は誰がなさいますか。

(一般社団法人境港青年会議所)

当団体のメンバーが学校へ行ってお話しします。資料の作成にあたっては、「NPO 法人 自然再生センター」という団体にご協力をお願いしております。

(委員)

講師料が計上していないのは、自前で行うためということですね。専門の方を頼むという考えは。

(一般社団法人境港青年会議所)

中海で漁をしているメンバーもおりますので、海のことなどはそのメンバーが講師を勤めます。

(委員)

対象として、市内小学生というのがありますが、具体的には。

(一般社団法人境港青年会議所)

市教委には話をしていますが、各学校の校長に話をするのは、年度が明けてからするようにと言われておりますので、決定ではありませんが、考えとしては、手を挙げてくれた学校の5年か6年の30人、40人を想定しています。順番としては、中海側の学校から話をしようと思っておりますので、渡小学校や外江小学校で人数が確保できれば、例えば、「渡小学校の6年生を対象」という形になるかと思えます。

(委員)

なるべく幅広く募集はしていただきたいと思えます。

それから私自身は境港出身で海に親しみを感じておりますが、港湾としては成熟してきている中で、子どもたちが海に親しみを持てる場所が減ってきており、中海をアピールすることは良いことだと思います。これを機会に今後も継続していただけたらと思えます。

(一般社団法人境港青年会議所)

私どもが長く続けてきた活動が竹内団地周辺のにぎわい創出です。コンサート等のイベントを諸先輩方が30年くらい前からやっています。来年の春、竹内団地にターミナルができるということで、行政としても力を入れ始めています。ですので、私どもは日の当たらないところにスポットを当てるというのを一つのテーマに活動しておりますので、今後も何かしらの形で中海をアピールする取組を続けていきたいと思っております。

(委員)

デートスポットとして夕日が見える中海をPRするとか、色んな形でアピールができると思えますので、よろしくお願ひします。

(委員)

毎年、視点を変えて、色々な事業をされておられて、楽しみにしております。その中で、気になるのは、今回の事業に関しては、将来的に継続していかないといけない事業だと思っています。その辺りいかがでしょうか。

(一般社団法人境港青年会議所)

境港総合技術高校の授業で中海を取り上げるのは2年目になります。去年は、オゴノリという海藻を取って、畑に撒くということをしました。本当は、加工品を作って売るまでできれば良いのですが、そこまでできませんでした。ただ、先生からは地域研究の事業の中で継続的にやっていきたいという言葉がありまして、今年は当団体と一緒にやりますが、今後も高校の方で継続的にしてもらおうということは話しております。

(委員)

私どもも中海への関心を持っておりますが、一般の方が参加できる機会というのは。

(一般社団法人境港青年会議所)

元々、広く募集する予定でしたが、今の子供たちは部活や習い事で休みの日も忙しいので、学校と話をする中で授業の中でやろうということになりました。平日となると、保護者の方もなかなか来られませんので、一般の方は難しいですが、ただ、ご意見はもっともですので、今後、会の中で検討したいと思います。

(委員)

ぜひ検討していただければと思います。

貸し切りバスを出すようですが、松江市役所経由となっていますが、なぜでしょうか。

(一般社団法人境港青年会議所)

これは美保関支所です。

(委員)

少しつっこんだ話をしますが、この授業によって、高校生や小学生にどうなってほしいというのはありますか。愛着を持ってほしいというのは分かるのですが、愛着は生まれるのでしょうか。

(一般社団法人境港青年会議所)

それができるように努力する、というのはもちろんなのですが…。

(委員)

この事業によって、この次にどうしていってもらおうかというのを考える必要があるのではないかと思います、いかがでしょうか。

(一般社団法人境港青年会議所)

まずは、一番身近な両親であったり、友人であったりに子どもたち自身が説明をできるように成長してほしいというのが一つです。ゆくゆくは、大人になったときに、自分たちの子どもたちや地域の人たちに伝えていってほしい。我々親世代の人ですら、中海の現状を知らないのです、そういった人口を一人でも増やすことがこの街のためになっていくと思いますので、まずは、知識を得てほしい、そして、それを伝えられる人間になってほしい、とっております。

(委員)

知識というところは今回の授業で得られるかと思います。ただ、体験というところでは、一方的に体験させられるというところになると思います。その後、大人と高校生・小学生で話をしてみることで、どういうことが起きているかという現状が分かり、こんな良いところがあるんだね、というのもわかってくる。そういう企画はありますでしょうか。

(一般社団法人境港青年会議所)

高校生たちが一方的に私たちのプログラムをこなすのではなく、学んだことを実践なり、あるいは、検証するために、小学生に伝えるという形を取ります。そうして、自分たちで学んだことをどう小学生に伝えていこうかというのを高校生自身に考えてもらいます。子供たち自身がどう成長するかというのも見られるかと思います。

(委員)

今回、動画を撮って、中海テレビのホームページにアップするということでしたが、例えば、マスコミに取材してもらって、ローカルチャンネルで放送されたものをネットにアップするというのはダメなのでしょうか。

(一般社団法人境港青年会議所)

プレスリリースをするので、取材にはテレビ・新聞が来ていただけると思います。ただ、それだと、夕方のニュースに出た、翌日の新聞に載ったというだけなので、そうではなく、青年会議所や総合技術高校として継続して事業をしているんだということをネットに載せて、365日見れるようにしたいと考えています。テレビで流れたものを流すというのは著作権上、難しいです。

(委員)

youtubeの視聴者数としてはどれくらいを見込んでおられますか。

(一般社団法人境港青年会議所)

1万人いけば良いと思いますが、いかないでしょうね。2千か3千か。

(委員)

これを「境港市民が見た」という検証はどのようにされますか。

(一般社団法人境港青年会議所)

検証までは行いません。

(委員)

分かりました。高校生や小学生がお互いに学ぶ中で、自分たちに何ができるのか、あるいは、将来、中海とどう関わっていきけるのか、というその道程を試行錯誤する段階まで協働して取り組んでいただけたらと思います。

(地域振興課長)

単純に申し上げて、総合技術高校の授業カリキュラムに対して、市民活動推進補助金を使う意義はどこにありますか。

(一般社団法人境港青年会議所)

元々、誰もやっていないことをやっていくというのが我々の信条でして、今回の話も総合技術高校からの話ではなく、我々が企画する中で、総合技術高校と一緒にやるという形になっただけですので、あくまで我々が主体となる事業です。

(地域振興課長)

実施が全て平日ということですが、小学校も授業の一環としてしないといけないとなると、対象が限られた学校の限られた子となってくると思います。市民活動推進補助金には、住民参加度が一つポイントになってきます。youtubeで流して、1万PVいくか分からない、その中で、境港市民がどれだけ見るかという検証もできないということでしたが、そのほかに市民の方に広く普及をするという考えは持っておりませんか。

(一般社団法人境港青年会議所)

現時点では持っておりませんが、我々としては、事業の内容をしっかりと伝えていきたいので、お金をかけてでも、3か月間、まずは、少人数にしっかりと伝えるという風にしたいと考えております。将来的には、一般市民の方たちにも伝えていけたら良いのですが、まずは、将来を担う子供たちにしっかりと伝えていきたいと思います。

(地域振興課長)

「子供たち」というのは総合技術高校の生徒たち35人ですね。

(一般社団法人境港青年会議所)

3か月というところでは、そうです。

(地域振興課長)

35人の高校生たちが、1日課外授業で小学生に伝えて、35人が75人になるかというところですよ。皆さんが気にされているのは、一般の参加というところと、参加できないのであれば、35人が75人になれるのか、また、そこから広げていけるのかという担保がないので、市民活動推進補助金としてどうかということです。その辺りを改めてお聞かせくださいますか。

(一般社団法人境港青年会議所)

最終的には3万5千人の市民に伝えていきたいですけど、現時点で、どれだけ伝えられるかという具体的な数値をあげるのは難しいです。

(地域振興課長)

分かりました。

<プレゼンテーション終了>

(会長)

それでは審議に入りたいと思います。みなさんプレゼンをお聞きになりまして感じたことなどがあれば発言していただけたらと思います。(以下、非公開)

～審議～

(会長)

それではこの事業については、採択としたいと思いますが、いかがでしょうか。

※委員異議なし

それでは、申請団体に対して採択の通知をお願いします。以上で、市民活動推進補助金の審査を終了します。そのほかありますか。

(事務局)

今後のスケジュールですが、次回の募集が4月1日から始まります。ですので、審査を

5月の連休明けに開催する予定ですので、また、お知らせいたします。

また、平成30年度の実績報告集を次回の審査までにお送りさせていただきますので、よろしく申し上げます。

申請書類は回収させていただきます。

<審査会終了>

(会長)

それでは、5分間の休憩をとって、今年度の協議テーマについて、話し合いますので、よろしく申し上げます。

3. 今期取組テーマ「U・Iターンをしたくなるまちづくり」についての協議

(会長)

それでは、再開します。今期の取組テーマ「U・Iターンをしたくなるまちづくり」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

お手元の資料に沿って、進めさせていただきます。

まず、振り返りとしまして、11月に行った高校生と大学生とのワークショップで出た意見をまとめたものをつけております。資料1です。こちらは、皆さまに以前お送りさせてもらったものと同じものになります。11月からだいぶ時間が経ってしまいましたが、みなさん、やってみていかがだったでしょうか。事務局としましては、嬉しい意見も多くあり、やった甲斐があったと感じていますし、毎熊アドバイザーからも「大成功と言っていいのではないか」と言ってもらっています。あとは、これをどう活かすかというところも大事になってくるかと思えます。みなさん、率直にいかがですか。感想でも良いので。

(委員)

私が高校のときより、遥かにしっかりしていて、自分の意見を持っているなど感じました。このような本音を言える場というのは大事だなと感じました。

(委員)

良い機会だったと思います。こういった機会はこれまでありませんでしたから。良い意見もありますけど、まあ、月並みかなという印象もあります。これをどうしていくかというところでは、1回きりではいけないと思います。これを何度か重ねて煮詰めていく必要があるかなと感じました。

(委員)

私が担当したのは、「境港が好きなおところ」というテーマでしたが、地域の人が温かい、安心するという意見が多くありました。ただ、その理由だけで生活ができるわけじゃない。若い人が働ける企業がどれだけあるのか詳しくはありませんが、行政だけの力でどうこうできる問題ではなく、難しいです。

それから、境港にお金を落とすという点では、彼らが買い物をするところがない。彼らからはやれユニクロだイオンだという声がありますが、そういった施設や遊ぶところがないのはどう解決していくかという問題はありますね。

(事務局)

ありがとうございます。

それで、そういった高校生たちの意見を踏まえて、何をしていくのかというところを考えていく必要があると思います。それにあたりまして、毎熊先生にも意見を伺ったところ、まずはゴールを決めるべきでしょう、というお話がありました。7月に毎熊先生に来てもらったときに、いくつかゴールの種類の説明があって、皆さんに話し合ってもらったところでは、「実践」か「提言」というのがいいのではないかと。そのほかにも、条例改正といった形でのゴールもあるのですが、感触としてはその二つでした。いかがでしょうか。

(委員)

ただ言っているだけじゃだめだと思うんですね。自分たちでやってみて、その中で、最終的にどうするかっていうのも見えてくるのかなという気がします。

(地域振興課長)

前期の話をしますと、「若い世代の参加」について提言をしました。そして、委員の若返りという形で実践もしたところなんです。ですので、決して、前期の委員さんが言いつばなしで終わったというわけではありません。そして、その内容の入った報告書は、市役所内の掲示板でも示して、各種委員会でも、若い世代の参加という点を意識していただくように伝えております。ですので、報告書を出して終わりではなく、きちんと生かされているというのは改めてお伝えさせていただきます。

(委員)

やっとなら、みんなでまちづくり推進会議も進み始めたという印象です。一時はどうなるんだろうと思っておりましたが。

(委員)

こういう意見の言える場が重要だと思います。なかなか世代を越えて、話し合える場というのはありません。将来、若い人たちが戻ってくるためにも、こういう場が多くあ

ることが大事かと思えます。それを担うのがこの会議なのか、どこか別の場なのかというのは分かりませんが。

(事務局)

まあ、「ゴール」については、皆さんに考えを巡らせていただいて、次回5月に会がありますが、そのときまでに意見をいただけたらと思います。その流れで、スケジュールと、こんなことができるのではという事務局の案をお示しさせていただきます。

※続けて、資料3・資料2を説明

(会長)

自衛隊の方がよく「境港は住み良い」と言われますよね。その理由というのを詳しく聞いてみたいですね。夕日ヶ丘に多くおられますが。

(地域振興課長)

父が自衛隊なのですが、環境が良い、物価が安い、災害がない、それから、適度に都会。基地の中には、田舎の田舎の田舎にぽんとあったりして、飛行場がこんな町の中にあるのはそれほど多くないです。ですので、利便性が良いというのがありますよね。

(委員)

例えば、東北から養殖に来られた方など、話を聞いても良いと思います。

(会長)

やはり、色んな層の方との話し合いが必要となってくると思います。

(委員)

テーマから言って、今、外に出ている大学生がどんなことを考えているのか、人集めが難しいかもしれませんが、話を聞いてみたいと思います。

(地域振興課長)

昔の誠道や今の夕日ヶ丘はいろんな人がいますよね。

(委員)

そうですね。色んな人がいすぎて、地元の常識が通用しないということもあります。

(地域振興課長)

夕日ヶ丘の会館でも良いですね。

(委員)

出前もありか。

(委員)

私たちが地域に行って、話を聞くというのもいいかもしれません。すごく意見が聞けると思います。

(委員)

U・Iターンをしてきた人って、ここで何かをしたいって思っていると思うんですね。で、学生もどんな仕事があるのか知らない。なので、そういう人たちに集まってもらう場を作るとするのは一つあると思います。ただ、今年度それをやろうというのはなかなか難しいかもしれないので、できる前提でマニュアルを作って、次の委員に渡したらどうでしょうか。

(委員)

そのマニュアル作成のための資料作りというのも必要ですね。

(委員)

東北のほうのNPOで、色んな職業の人を学校に集めて、話をさせ、次の授業で学生から職場に行ってもらって、地元企業を知ってもらうという取組をしています。

(委員)

中学生は職場体験がありますよね。

(会長)

ただ全部の話を聞けるわけではなく、どれもこれも行けるわけじゃないんですね。

(委員)

鬼太郎ロードにたくさんの方が来ますので、アンケートを取るとか。誰がするかという話になりますが。

(委員)

境小学校の生徒がやっていますね。

(委員)

せっかく250万人も来ていますから、ただ行って帰ってもらうだけじゃなく、色んなアイデアがあると思いますし、聞いてみたいですね。

(委員)

まちづくりの会議なので、この前高校生が出してくれた意見についても、U・Iターンだけじゃなく、市の活性化ですとかいろんなところに生かせたら良いですね。それに、1期だけで完結するわけでもないと思うんですね。これまでは1期ごとということだったと思いますけど、次回につなげるためのマニュアル作りというのは良いと思います。そのために、私たちがアンケートのような実践をしたり、ワールドカフェをしたりしてはどうかと思います。結果として、そのマニュアルが一つの提言にもなるのかもしれないし。

(委員)

ないものねだりの意見が多いんですが、好きなどころもあって、割とみんな幸せなんじゃないかと。

(委員)

嫌いなどころがあるなら、「一緒にやろうよ」ってできれば、好きにもなるはずなんですよ。

(委員)

高校生がインターンで来ますが、地元に残りたい人と出たい人ではっきり分かれます。出たい人には何を言ったって出たいものは出たい。ただ、都会は行ったはいいけど、疲れて帰ってきたい、ただ仕事や家がない。やっぱり、出るなら出るで良いのかもしれませんが、地元の魅力を知っておいてもらって、疲れたら帰ってこいと。

(委員)

外の体験も必要なので、良いと思うんですけど、情報発信をどんどんして、帰ろうかなという気分にさせる必要がありますね。

(委員)

自分も外に出て帰ってきた人間ですが、やはり理由としては、人付き合いがなかなかできなかつた。家族はもちろん、同級生もいないし。結果的に、給料は下がったけど、生活はできたので、問題はありませんでした。

(事務局)

皆さんまだまだ意見があるかと思いますが、これらを踏まえて、「次はこんなことをしてはどうか」「こういう人たちから話を聞きたい」という意見があれば、次回の5月の会までに、メールでも電話でも良いので事務局までお伝えください。5月の会では、今後の方針というのを決めて、アポが必要なものがあれば動いていきたいと思いますので、よろしく

お願いします。

(会長)

ということで、ご意見ありましたら、事務局までお寄せください。

4. 閉会

(会長)

それでは、以上をもちまして、第1回のみんなでまちづくり推進会議を終了します。

委員の皆様、長時間にわたってご協議いただき、ありがとうございました。